FOLFOX6の入院治療を受ける方へ

患者氏名　　様

病名		病状説明： 左記病名に対して抗がん剤治療を施行します	退院基準：治療によって起こりうる副作用症状を知り、 症状出現時の受診方法・緊急連絡方法が理解できている	特記事項：
	入院１日目（　/　） （入院当日）	入院２日目（　/　）~入院３日目（　/　） 点滴開始前	点滴終了まで	入院４日目（　/　） （退院当日）
検査・治療処置	●血液検査	●点滴用の針を留置します	●治療開始時～インフューザーポンプ開始まで心電図を測定するモニターを装着させて頂きます	●退院前に体温・血圧・脈拍・酸素飽和度を測定します
	●入院時に身長・体重、体温・血圧・脈拍・酸素飽和度を測定します ※医師の指示があれば他の検査が追加となる場合があります		●点滴終了後看護師が留置針を抜針します	
薬剤	●現在服薬中の薬がありましたらお薬手帳と一緒に看護師にお渡しください ●持参薬の継続・中止などを医師が判断します		●吐き気などの症状がありましたら追加の薬剤（内服・点滴）が処方される場合があります	
安静度	●制限はありません	●制限はありません	●抗癌剤投与中はなるべくベッド上でお過ごしください。また、病棟外へ出られる際は、看護師へお声かけ下さい	●制限はありません
排泄	●制限はありません	●点滴開始前に排泄を済ませておいてください	●点滴開始から終了後1週間はトイレの水を２回流して下さい	
清潔	●シャワー浴は可能です	●シャワーは希望時は、看護師にお知らせください		●退院後の入浴に関する制限はありません
食事・栄養管理	●医師の指示により制限食となる場合があります			
説明	●「問診票」「入院申込書」「入院誓約書」「保険外実費徴収書」とこの用紙を持参して看護師にお渡し下さい ●「化学療法を受けられる患者さんへ」のパンフレットを参照してください		●インフューザーポンプに変更になれば適宜、適切な速度で施行できているのかどうか、観察を行います	●看護師より退院後の生活について説明があります
指導	●薬剤師より翌日の治療で使用する薬剤について説明があります		●退院までに外来化学療法センターで外来治療の説明および次回治療の予約を行います	
教育	●病棟の案内があります		●点滴施行部位の痛み、赤み、腫れなどの有無を観察します。症状がありましたら、すぐにお知らせください	

FOLFOX療法の入院治療を受ける方へ

退院後から注意していただくこと。

・倦怠感、食欲不振
高熱が続く時は受診しましょう。

・末梢神経症状
点滴後、数時間～数日後よりしびれが生じる事があります。
⇒冷たい食べ物、飲み物を避けるようにしましょう。冷気、冷たいものに触れない、体を冷やさないようにしましょう。

・口内炎、味覚の変化
口の中の粘膜が薬によってただれ、口内炎ができやすくなります。
⇒うがい薬を使用するなど、口の中はなるべく清潔にしましょう。喫煙や飲酒、刺激物は避けましょう。

点滴後1、2週間後～

・骨髄抑制
白血球、赤血球、血小板などの血液細胞が減少して感染症にかかりやすくなったり、貧血や出血が起こることがあります。

・感染症を予防するため、手洗いうがいを行い、体を清潔に保ちましょう。

・体を強くこすったり怪我や転倒などはしないよう十分注意してください。

詳しくはセルフケアサポートブックをみてください。

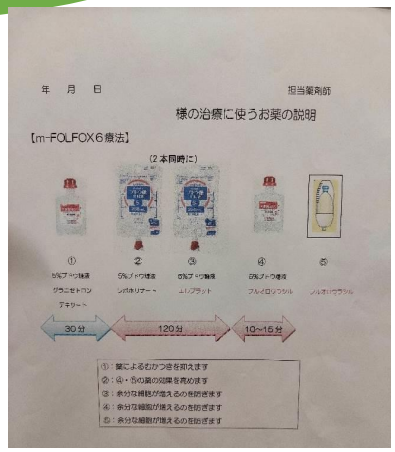
何かありましたら、当院の代表者番号まで連絡をお願いします。
Tel(075)391-5811

化学療法を受けられる患者さんへ

○治療の流れ○

①薬剤師からの説明

抗癌剤の副作用や治療に要する時間については、薬剤師から事前に説明があります。
その際に渡される別紙を参照ください。
(右記のような用紙になります。)



②採血

治療の前日や当日に血液検査があります。何か「吐き気がする」「体がだるい、しんどい」等の体調の変化があれば、我慢せずに医師または看護師にお知らせください。
血液検査と体の状態をみて、治療実施が可能かの判断を医師が行います。

③抗がん剤の準備

8時半～10時頃の間で点滴の針を留置に伺いますので、事前にトイレを済ませてお部屋でお待ちください。(調剤を行う薬剤師や医師の都合上、時間が変更となる可能性があります。変更がある場合は当日看護師がお伝えします。)

※医師による血液検査の結果確認や、実施許可の指示後に薬局で調剤が始まります。
そのため当日の状況次第で予定よりお待たせする場合があります。

④抗がん剤の開始

点滴が準備出来次第、薬局からお薬が上がってきます。
看護師より抗がん剤開始前にお声掛けします。
トイレを済ませてベッドでお待ちください。

○安全に点滴を行うために（セルフケアサポートブックP12～13抜粋）○

・点滴中は副作用出現時に速やかに対応できるよう持ち運び可能な心電図モニターを装着します。
装着中もお手洗いへの移動は可能です。

・留置する針は、樹脂の軟らかいカテーテルですので多少動かしても問題ありませんが、
出来るだけ楽に腕を伸ばして安静を保つようにしてください。

・ポートを留置されている患者さまにつきましても動かして問題ありませんが、
腕を挙げる時に針が浮きそうになる事があるため腕を大きく挙げる動作は控えてください。

・点滴中にかゆみや息苦しさなど体に変化を感じた場合、点滴の針が入っている場所の痛みや腫れなど違和感がある時は、早めに点滴を止めることが大切です。遠慮せずに、すぐにNSコールでお知らせください。

・点滴を予定通りに投与するために輸液ポンプを使用します。
輸液ポンプのアラームが鳴った時は、ナースコールでお知らせください。
・トイレなど室外へ出られる場合は、輸液ポンプ側の電源コードを抜き、
ローラー付きの点滴スタンドを持って動いていただくようお願いいたします。
・点滴中のトイレや飲食の制限はありませんが、尿量測定が必要な場合があります。
その際は看護師より説明いたします。

＜排尿、排便の処理の方法＞
※抗癌剤治療開始から数日間、微量ながら尿や便から抗癌剤が排出されます。
直接触れる事で健康被害を及ぼす可能性は低いですが、出来るだけ周りに広げない為に以下の方法についてご理解をお願いいたします。
・点滴投与後7日間は、水を2回流すようにしてください。
・男性の場合、排尿時の飛び散りを避けるため洋式トイレに腰かけて排尿してください。
・尿が床や便器にこぼれた場合は、トイレットペーパーできれいに拭き取り、トイレに流してください。
・トイレの後や排泄物が手についた際は流水、石鹸で手をよく洗ってください。
・尿器を使用される場合は、使用後蓋をしてすぐにナースコールにてお知らせください。
※薬剤により上記の内容が不要の場合がありますので、該当者にはお伝えいたします。

・シャワー浴については、治療当日は控えていただき、翌日以降につきましては体調に合わせ
体を拭いたり、シャワーの準備をするなど看護師がお手伝いします。

他にも不明点があれば看護師に
お聞きください！！

G棟5階病棟

京都桂病院　腫瘍内科　2022.6.7 Ver.1-01